日蓮大聖人御書全集

松野殿女房御返事

まつのどののにょうぼうごへんじ

（澄心仏住の事）

ちょうしんぶつじゅうのこと

新版
2006～2007

松野殿女房御返事（澄心仏住の事）

建治・弘安期　松野殿女房

白米一斗・芋一駄・梨子一籠・茗荷・はじかみ・枝大豆・海老根えびね、かたがたの物給び候いぬ。

濁れる水には月住まず、枯れたる木には鳥なし、心なき女人の身には仏住み給わず。法華経を持つ女人は澄める水のごとし。釈迦仏の月、宿らせ給う。譬えば、女人の懐み始めたるには吾が身には覚えねども、月漸く重なり日もしばしば過ぐれば、初めにはさかと疑い、後には一定と思う。

心ある女人は、おのこご・おんなをも知るなり。法華経の法門も、またかくのごとし。南無妙法蓮華経と心に信じぬれば、心を宿として釈迦仏懐まれ給う。始めはしらねども、漸く月重なれば、心の仏夢に見え、悦ばしき心漸く出来し候べし。法門多しといえども、止め候。

法華経は、初めは信ずるようなれども、後遂ぐることかたし。譬えば、水の風にうごき、花の色の露に移るがごとし。

何として今までは持たせ給うぞ。これひとえに、前生の功力の上、釈迦仏の護り給うか。たのもしし、たのもしし。

委しくは甲斐殿申すべし。

九月一日

松野殿 女房御返事

日蓮 花押